

シリーズ
「時代の証言者」



聞き手 読売新聞東京本社運動部 荒井秀一

不屈の闘志で極めた野球道

最多安打で「喝」 張本勲



読売新聞
アーカイブ選書

読売新聞アーカイブ選書

シリーズ「時代の証言者」

最多安打で「喝！」 張本勲

不屈の闘志で極めた野球道

読売新聞社刊

- (1) イチローと素晴らしい勝負
- (2) 右手のハンデを克服
- (3) 原爆の恐怖と悲しみ今も
- (4) 左投げ転向野球の道へ
- (5) プロ野球選手にあこがれ
- (6) 兄のおかげで浪商へ
- (7) 肩を痛め打者へ転向
- (8) 「江戸で勝負」 東映入団
- (9) 松木コーチと出会う
- (10) プロ2戦目の初安打
- (11) 水原監督から精神教育
- (12) 度胸で4連勝日本一
- (13) ワンちゃんのお陰で改心
- (14) セーフティーバント体得
- (15) バントで新記録達成
- (16) 後輩の大杉二冠達成
- (17) 大投手「杉浦・稲尾・米田」
- (18) 打撃の必須3条件
- (19) 巨人移籍「OH砲」誕生
- (20) ファンあつてのプロ野球
- (21) 長嶋監督の野球への情熱
- (22) 母の目の前で3000本目
- (23) WBC 私ならこの打順
- (24) 死ぬまで「喝！」

◎表紙写真Ⅱ読売新聞写真部 杉本昌大／表紙デザインⅡモダングラフィティ 橘田尚久

◎この電子書籍は、読売新聞朝刊連載「最多安打―張本 勲」(2009年1月21日～2月24日掲載)を再録したものです。文中の肩書、年齢、その他の情報は、掲載当時のものです。

〈プロフィール〉

はりもと いさお
張本 勲

1940年（昭和15年）、広島市生まれ。59年、大阪・浪華商高（現大体大浪商）から東映（現日本ハム）に入団。76年に巨人、80年、ロッテに移籍。首位打者7回。80年に史上初の3000本安打を達成し、81年に引退。現在は野球評論家。

(1) イチローとならいい勝負

鮮やかな「広角打法」によって、巨人などで日本プロ野球最多安打記録をマークした張本勲さん。幼少時に右手にけがを負い、被爆も体験しながら不屈の闘志で乗り越えた大打者が、劇的な人生を振り返り、イチロー選手や今の野球界を語る。(東京本社運動部 荒井秀一)



大リーグ・マリナーズのイチローが、私の通算安打記録にあと2本に迫っていると騒がれてます。(2009年1月当時)

日本のプロ野球は70年以上の歴史があります。私も名選手を何人も見ましたが、これほど、いとも簡単にヒットを量産する選手は、見たことがありません。

彼の特徴はバットを持つグリップが全然、動かない点です。ワンちゃん(王貞治)、長嶋(茂雄)さん、落合(博満・現中日監督)でも、多少はグリップでタイミングをとるもんなんです。でも、彼は絶対に動かない。だから、正確に打てるんです。

35歳のイチローには、あと6年以上、年間200安打を続けて、ピート・ローズ(レッズなど)のメジャー記録、4256安打を抜いてもらいたい。そして、米国という一つの国で、3000本を打ってもらいたい(2009年1月現在1805本)。彼なら、きつとやってくれると思います。

ただ、イチローは日米通算で、私は日本の記録。試合数も違うし、あくまでも、別にしてもらいたいですね。参考記録という形で比較するならば、それはそれでいいんですが。

*この続きは製品版でお楽しみください。

読売新聞アーカイブ選書

シリーズ「時代の証言者」

最多安打で「喝！」 張本勲

不屈の闘志で極めた野球道

発行日 2024年3月25日

著者 張本 勲

(聞き手 読売新聞東京本社運動部 荒井秀一)

発行者 村岡彰敏

発行所 読売新聞東京本社

〒1000-8055 東京都千代田区大手町1-7-1

URL: <https://www.yomiuri.co.jp/>

©2024 Isao Harimoto, The Yomiuri Shimbun

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、インターネット上に掲載すること、および有償、無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。なお個人利用の目的であっても、コピーガードを解除しての複製は、法律で禁じられています。